

2026新春対談「堤 直美&長泉町長」 文化が紡ぐ心豊かな人生を…

つつみ なおみ
堤 直美
(彫刻家)

いけだ おさむ
池田 修
(長泉町長)

現代社会は、紛争や気候変動、災害、人口減少、物価高騰、トランプ関税など…多くの課題を抱え、混迷する日々が続いています。また、私たちも忙しい毎日の中で、つい自分を見失い、周囲に流されて大事なことを見逃してしまうことがあります。

そのような目まぐるしく、情報過多な時代の中にあっても楽しさや感動、心を和ませ、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらしてくれる、「芸術や文化」はとても必要な存在です。

今回、長泉町東野在住の“彫刻界の至宝”「堤 直美」先生をお招きし、「芸術や文化」とのふれあい方などをお聞きました。

日展最高賞

町長

先生、まず日展(第118回日本美術展覧会)の最高賞、文部科学大臣賞受賞おめでとうございます。私も嬉しかったです。

堤

ありがとうございます。この対談が決まった後に、突然の朗報が入り、驚きました。

授賞式では、受賞者61人を代表して謝辞を述べましたが、偉い人が大勢来ていて、前を歩くだけで緊張しました。

出品を始めてから57年間の話や、落選5回の話をしました。場を和ませることができました。

町長

先生のお人柄があつてこそ、場が和んだですね。

作品を拝見させていただきましたが、「双笛譜」という作品ですね。

堤 直美

1950年 西伊豆町に生まれる
1969年 県立葦山高校卒業
1973年 武蔵野美術大学卒業
1975年 日展初入選
2004年 日展評議員就任
2025年 日展最高賞受賞



堤
背中合わせで笛を吹く2人の女性の利き手が違うことで、その姿から「左右、東西、南北など背中合わせで考えが異なり、思想が真逆であっても美しいハーモニーを生み出すことができるのではないか」と考えました。
平和を祈る像です。

堤

そうでしたね。伊豆に新しい家造って1年ぐらい住んだ頃でしょうか。だんだん、自分はいいのかなという不安を覚えるようになってきました。「困ったな」なんて思っているところに、長泉町の



町では「文化の町づくり」の一環として、芸術家の招聘を計画しまして、そのお一人目として昭和63年に先生をお招きしました。先生は、西伊豆町で既に活躍されていたが、東野にアトリエを造られ、ここを拠点として創作活動をする事になり、彫刻を愛する人々と町の芸術文化振興が一気に高まったことを覚えています。

町長



高橋正三元町長から「文化のまちづくり」をするから来てくれないかという、ラブコールが来ました。当時の長泉町は、ママさんバレーをはじめ、スポーツが盛んな時代でした。一方で、「文化がこの町には無いから誰かいないか」と探していたみたいでした。伊豆にこんな奴が居てプラプラしているみたいだから、とりあえず、声を掛けたのですかね。

僕も直ぐ「行きます」と乗りましたが、家を造ったばかりでお金が無くて困りましたが、なんとか銀行からお金を借りて造ったのがこの家です。

ある日、高橋元町長から「堤さん、ヴィーゲランって彫刻家知ってる？」と言われました。ノルウェー・オスロの町中に600以上の彫刻がある場所があって、そこにグスタフ・ヴィーゲランという1人の彫刻家を呼んで、終生ずっと街に彫刻を作らせたいみたいです。それが現在のヴィーゲラン彫刻



公園で、世界中から観光客が訪れる公園になったとのことでした。長泉町もそんなまちづくりをしようと考えていたのだと思います。

日展

町長

先生は、お若い時から日展の賞を受賞されていましたよね。また審査員に就任されたのもお若い時でしたね。

堤

日展は、伊豆で活動していた時には、トータル5回落選しましたが、30・31歳のときに日展で連続して特選を受賞しました。それから7・8年後の長泉町に来て2年目頃に、日展の審査員になりました。40歳で審査員というのは、すごい珍しいようです。



町長

とくに具象彫刻、造形感覚が高く評価されていたんですね。

堤

以前は、私の評価額も安かったけど、やっと美術年鑑の彫刻部門のページ目に掲載されるようになりしました。彫刻の耐用年数は、未だに青銅器時代のもが残っていますから、本来は五千年もつてですよ。

だから、彫刻の値打ちを上げることは、ある意味、長泉町への恩返しになるのかなと思います。

「徳川家康公像」

町長

先生の作品は、今や全国各地にたくさん設置されていますよね。現存されていない歴史上の人物、例えば「徳川家康公」はどのようにして制作されるのですか。

堤

先ほども言った通り、彫刻は千年、最長五千年でも残るものです。変なものを作ると、ずっと残ることになるので、歴史上の人物は制作に入る前に徹底的に調べます。

静岡駅前の家康公像は、まず「山岡荘八」という小説家のベストセラーの「徳川家康」という本が26冊ありますが、それを読んでも「山岡荘八」の見方だから、いろいろな人の見方を参考にしました。それから、徳川家康ゆかりの地岡崎、名古屋、浜松、静岡、東京、水戸の美術館や博物館を全て巡りました。

それらを見て、初めて小さい試作品を作り始めます。これを少しずつ大きくして、最終的な作品の大きさにするんです。このように、徹底的に肖像彫刻は調べます。嘘のものをつくったら、大変なことになりますので。

「井上靖像」

町長

令和5年、井上靖文学館開館50周年記念に際して、お忙しい中、お引き受け頂いた「井上靖像」の制作エピソードを教えてください。

堤

本当に難しかったです。井上先生の小説も全部読みました。本の中に色々な人物像が山ほど出て来て、『蒼き狼』のように勇ましいものや『天平の鷹』、『しろばんば』など、頭の中で混乱しました。

イメージを頼りに完璧に作って、夕方に「できた」と思っているのに、翌朝見ると全然イメージが違って、朝の光で見ると違うんですよね。朝の光は、物事を客観的にするんです。醒めるというのでしょうか。「あれ、違うぞ」と思って壊して、また違うイメージで作って、完成して、また壊すというのを、11、12回、やりました。

最後に、あの『しろばんば』の本当に純粹な、人間性を表現しようとする普通さを感じて納得したのが、あの作品なんです。



除幕式の時に、井上靖先生のご長男に、「機嫌のいいときの井上の顔です」とおっしゃっていただきました。また、除幕式には『しろばんば』の主人公・洪作の叔母「さき子」という先生の役をやっていた縁で、女優の故山本陽子さんも来てくれました。

首相官邸 「HOTARU」

町長

先生の作品が首相官邸に設置されていましたね。

堤

曰展に、当時の首相の小泉純一郎さんが見に来られたことがありました。

小泉首相が「何か飾りたいな」と思ったんですね。それから官邸に何人かの作品が飾られました。これがその作品ですが、官邸の中に入って写真が撮れないので、交流のあった元法務大臣が写真を撮ってくれました。嬉しかったです。新しい内閣が発足すると、赤絨毯の階段に大臣が並ぶ光景をテレビ

などで見ると思いますが、あの階段の横に10年間飾ってありました。この像はずっと新しい内閣を見ていました。(笑)

伊勢市神宮美術館 「夢の刻(Ⅱ)」

町長

昨年、伊勢市の神宮美術館で開かれた特別展に先生の作品が展示され、大変誇らしく思いました。

堤

伊勢市の神宮美術館では、春の宮中歌会始めの御題をテーマにした作品の特別展をしています。御題が「夢」で、学芸員の方が私の「夢の刻」という作品を探し出してくれたんですね。私が41歳、大変苦しかったときの作品で、「一心に制作する時間が他のことを何も考えなくてよい『夢の刻』だった」ことを思い出します。特に気に入っている作品で、家の庭の正面に設置していました。

特別展では日本を代表する作家の彫刻や絵画33点が展示され、その一つに選ばれたことは大変光栄

でした。大きな部屋の真ん中に1つだけ飾ってもらいました。多くの皆さんに見ていただけて嬉しかったですし、曰展関係者も喜んでくれました。





「八代亜紀像」

町長

故八代亜紀さんの像も制作され
たんですよ。

堤

故八代さんの所属事務所スタッフ
と交流があり、電話で「(銅像)
やってくれないか」というので、
それは「もちろんやります」と答え
ました。

同時に鮎賣公園の「ETERNAL
TIME」と二つ一緒にやるので、
土日がなくなりました。

そうしたら、腱鞘炎になっちゃって、
まだ痛いんです。(笑)

制作にあたり、事務所の社長に
頼んで、本人が着たドレスを借りて
アトリエに飾りました。♪雨々
ふれふれって「雨の慕情」を歌ってる
姿をイメージしましたが、八代さん
をしのぶことができますかね。
彫刻の設置場所は、故八代さん
の墓所がある品川区の目黒不動の
近く、「臥龍山 安養院」で、そこ
のお寺に建っています。歌手になりた
いや、ファンがお花を持って、
御参りに来るみたいです。

町長

先ほども話をしましたが、過去
に「次代へ継ぐ豊かな人間性を
はぐくむ文化のまちづくり」を掲げ、
個性ある新しい町民文化の誕生を
目指しました。

また、先生には町公民館でも文化
を育てる環境づくりとして、彫刻
(彫塑)教室の講師をお願いし、
蒼土会を立ち上げるまで文化振興
にご協力いただきました。

そして町内の公共施設をはじめ、
街中に多くの作品を残すことが
できてきました。

堤

そうですね。社会教育の青年講座
で彫刻教室をすぐ始めました。昭和
63年頃でしょうか。池田町長も
まだ役場職員で、一緒に机を運び
ましたよね。そして「美術展」を
創ったんですよ。

それから、35年ぐらいいやってる
のかな。こっちに来てから本当に、
いろんなことがありました。



■主な作品

静岡駅前「徳川家康公・竹千代君像」／島田市蓬莱橋「勝海舟像」
／沼津駅北口「江原素六翁像」／中央大学「テミス像」／築地川
銀座公園「名犬チロリ像」／品川区「八代亜紀像」／袋井エコパ
スタジアム「ラグビーワールドカップモニュメント」／イラク
大使館「ショ克蘭の種」他



町長

3月にオープンした町内の最新作が鮎壺公園の像ですよね。

堤

町内に彫刻も増えて、文化のまちづくりが、結構うまくいったと思います。池田町長になってから、さらにレベルアップしたのではないのでしょうか。池田町長は、バランスがよく、道路や公園をつくるとか、色々やっていますよね。もちろん文化もあるけれども、僕が35年前に来たときと比べると、素晴らしいまちに変わっていますよ。今がもう僕は最高じゃないかなと思っています。それでこの間、鮎壺公園の彫刻を作る時に、「この状態がずっと続いてくれないかな」と思って、「エターナルタイム（永遠の時間）この時が永遠に続くように」という像を作りました。



町長

私は彫刻を眺めることで、自分を見つめ直す時間になると思っています。どのように作品に触れ、接すると良いですか。

堤

「美術品は敷居が高い」と思われている方は多いと思いますが、特別なことは必要ありません。気軽に楽しんで欲しいですね。ただ、その作品の時代背景、作者の経歴を調べておくと、より作品の見方、味わい方が変わると思います。心で向き合えば、絵画や工芸、書、何でもいいと思うんです。

町長

文化は「心のゆとり」「心の豊かさ」と言えるのではないのでしょうか。特に彫刻は、公共空間を彩り、魅力ある景観をつくる力がありますよね。住民にとっても町への誇りとなり、訪れる方にも町の魅力を伝えられますよね。

私自身も多くの美術品に触れたいと思いますし、町民の皆さんが身近に文化芸術に触れられるようなまちづくりに努めます。先生、今日はありがとうございました。

■町内で観ることができる作品

文化センター「愛のメロディ」／長泉中学校「天駆ける」／駿河平自然公園「L'histoire des forêts」／水鏡／荻素橋親柱「歓・喜・慶・悦を表現した彫刻」／いずみの郷「碧空」「新しいページ」／コミュニティながいずみ「泉の精」「洪作少年」／ウェルピアながいずみ「富嶽讃歌（富士に舞う）」「未来へ」／パルながいずみ「ふれあい」／いずみ公園「米山梅吉翁像」／福祉会館内「陶壁〈泉の精〉」「銅像〈パウゼ〉」他

